



たとえ腹が立っても…

副校長 板澤 康矩

令和6年度のスタートから1ヶ月が経過し、これまでの頑張り等の疲れが溜まってくる時期ですが、タイミングよく大型連休を迎えます。この機会にリフレッシュして、1学期の中盤・後半の充実した活動につなげていただきたいと思います。

どこかに出かけても、出かけなくても、子ども達が心のエネルギーを充填できるように、話を聞いたり、悩み事(があれば)の相談にのったりしていただきますようお願いいたします。



4月の避難訓練を4/23に行いました
(記事とは直接関係ありません)

ところで先日、インターネットラジオのお笑い芸人さんの番組を聞きながら出勤しました。弾むトークで通勤電車の中のひと時があつという間に感じましたが、一方で考えさせられる内容でもあったので、今回の記事に載せさせていただきます。

お笑い芸人のAさんは五十歳代のベテランで、テレビでもよく見かける方ですが、芸能人として今ほど売れる前の若手時代(三十数年前?)のことが話題になっていました。

＜当時は芸人として売れなくて必死だった。普通の会話の中に急に『殺すぞ』『消えろ』を織り交ぜることでウケたので、コントの中にそういう場面を意識的に取り入れた。当時はそれが突飛な事だったので。それから時がたち、多くの人が『殺すぞ』『消えろ』というような言葉を日常会話の中で使うようになったように感じる。逆方向の『神』等も含め、その言葉は真面目に言っているのではなく、自分(Aさん)なりに変換すると「いい加減にしなよ」「もうやめなよ」とか「ありがとう」といった意味で使われているように感じる＞旨でした。また、そういった言葉にお笑い芸人ならではの「オチ」としての機能があることについても触れられていました。

Aさんが上記の一連の内容を話し終えたとき、番組アシスタントの方が「これには、言う方・言われる方の関係性もありますよね」とつなぎ、話は「お笑い」をベースにさらに進んでいきました。

さて、私の周りにも「殺す」「消えろ」等の言葉を(常にではないにしても)口にする人がまったくいないわけではありません。その人たちも、真の意味でその言葉を使っているわけではないはずです。

関係性があるから「殺す」「消えろ」と言えることを肯定するのではなく、相手を思いやり、たとえ腹が立っても「殺す」「消えろ」ではない言葉で自身の考えを伝えられることを大切にしたいと改めて考えたひと時になりました。

あまり弾む話題ではないかもしれませんが、ご家庭でもお話いただけると幸いです。

スクールメールに登録されていますか？

「台風による臨時休校」等の緊急連絡は、本校ではスクールメールや学校HPでお知らせいたします。保護者の皆様は、プッシュ型の通知であるスクールメール(使用料は無料。受信に伴うパケット料等は受信者負担となります)への登録をお願いいたします。

5月の行事予定

- 1日(水) 特別時程 朝読書 聴力検査(3年)
学校探検(1・2年)
- 2日(火) 安全指導 聴力検査(5年) 尿検査一次②
- 7日(火) 特別時程 避難訓練(集団下校)
- 8日(水) 特別時程 4時間授業 朝読書
- 9日(木) 歯科検診(5・6年)
- 13日(月) 全校朝会外 委員会活動
- 14日(火) 特別時程 運動会準備①
- 15日(水) 特別時程 朝読書
- 16日(木) 体育朝会(1・4・6年) 歯科検診(3・4年)
交通安全教室(1年) 2校時
- 17日(金) 特別時程 体育朝会(2・3・5年)
八ヶ岳自然教室説明会(5年) 15:00~
- 20日(月) 全校朝会 特別時程 運動会準備②
教育実習始(~6/14)
- 22日(水) 特別時程 朝読書
- 23日(木) 体育朝会(1・4・6年)
眼科検診(全学年) 13:30~
- 24日(金) 特別時程 体育朝会(2・3・5年)
運動会前日準備
- 25日(土) 運動会(分散実施)
第1部 2・3・5年 8:20開始予定
第2部 1・4・6年 10:40開始予定
- 26日(日) 運動会予備日
※5/25が運動会実施不可の場合
- 27日(月) 振替休業日
- 29日(水) 特別時程 朝読書 耳鼻科検診(全学年)
- 30日(木) 歯科検診(1・2年) 尿検査二次①
- 31日(金) 尿検査二次②

☆運動会について

詳細は、後日配布するお便りやプログラムをご参照ください。今年度も分散により実施しますので、各学年の登校・下校時間等ご注意ください。

>>6月1・2週目の予定

- 3日(月) 全校朝会外 クラブ②
- 4日(火) 安全指導 プール準備(5年)
- 5日(水) 特別時程 朝読書
- 6日(木) 八ヶ岳自然教室事前健康診断(5年)
- 7日(金) たてわり班集会

令和6年度教育実習生の受け入れをします

実習生名:

実施期間: 5月20日 ~ 6月14日<4週間>

実施学級: 4年2組

4年生にとっても、貴重な経験となるように実施いたします。

水の事故に気を付けてください！！

- (1) 子ども達だけで、川遊びなど水辺に近寄らないこと。
- (2) 遊び道具や帽子等が流されても、けっして取り戻しに水の中に入らないこと。物は買い直すことができても、命は二度と戻りません。
- (3) 大人と一緒にいても、水に入るときには必ずライフジャケットを着用すること。

【5月の目標】

- ◎安全に気を付けて登下校しよう
- ◎生活リズムを整えよう

三小では、PTAの協力のもと、登校時間帯にスクールゾーンの柵(車両通行止めのバリケード)があり、安全に登校することができていますが、下校時には、スクールゾーンの柵がありません。

従いまして、登校と下校では歩き方が変わることをそれぞれの発達段階に合わせて指導していきます。下校時に道に広がり歩いてしまう子どもが少なからずいますので、お家でも話題にしていただけるとありがたいです。

交通安全意識を高めましょう！

統計的に、4~5月は子どもの交通事故が増える傾向があるといわれています。

警視庁のホームページに、「こどもの交通事故防止対策の要点」として、以下のことが掲載されています。

<大人の配慮事項>

- ・交通ルール遵守の手本を示す
- ・こどもに対する思いやりの気持ちを持つ
- ・こどもの急な飛び出しに備え減速する

<保護者の配慮事項>

- ・一人歩きをさせない
- ・チャイルドシートの適正使用

<こどもの安全教育>

- ・横断歩道、歩道橋、信号機の利用
- ・横断の意思表示と安全確認
- ・横断中も「左右をよく見る」

三小では、災害安全・交通安全・生活安全といった視点で、発達段階に合わせ、年間指導計画に沿って安全教育を推進してまいります。

登校前の健康観察を必ずしてください

登校直後(8時半過ぎ~9時頃)に、体調不良を訴える児童が少なくありません。

本校は500人以上の集団生活の場でもあります。感染拡大予防の観点からも、無理して登校させることのないようお願いいたします。

また、校外学習先で体調不良となった場合、出先近くの病院を受診し、そこまで迎えに来ていただくこととなりますので、あらかじめご承知おきください。

キラリ通信

令和6年5月1日発行

全校版

特別支援教室七小キラリ

拠点校 第七小学校長 島村 雄次郎

巡回校 第三小学校長 田村 聡

巡回校 第六小学校長 田野倉 宏美

一人一人の得意なところを伸ばして、困っているところ、苦手なところを自分に合った学び方で分かる(できる)ようにしていくための学びの場として、各校に特別支援教室(キラリ)が設置されています。

特別支援教室キラリの紹介

- ・児童一人ひとりの課題や在籍学級での適応状態などを踏まえて、指導目標を設定します。
- ・指導の内容や児童数、学年などを考慮しながら、個別指導や小集団指導を行います。
- ・キラリで学んだ内容を担任の先生と共有し、在籍学級での指導や支援に活用します。

自立活動

個々の障害による、学習上または生活上の困難を改善したり克服したりすることを目的とする指導です。例えば…

＊ コミュニケーションの指導

実際の生活に応じたコミュニケーション方法の学習を通して、身近な人と安定したコミュニケーションがとれるように指導します。

＊ 自己理解の指導

自己の理解しやすい学習方法の学習を通して、自己の得意な方法を理解し、自分で学びやすい方法で学習できるように指導します。

＊ 人間関係の形成の指導

自己に対し肯定的なイメージを持つ学習を通して、身近な人と一緒に活動したり、意思を交換したりできるように指導します。

＊ 身体の動き、環境認知の指導

興味・関心に応じた道具を使って、手指を動かす学習を通して、作業等の際、自己調節し持続できるように指導します。

教科的な内容を取り扱う自立活動

いわゆる補習や復習とは違います。一人ひとりの特性によるつまずき、苦手なところに特化した指導です。苦手の原因や理解の仕方などを児童と一緒に考えます。

授業への参加が難しい原因

- 状況理解(社会性)
- 見通し(時間・行動)
- 学習意欲(意味理解・価値づけ)
- 集中力(刺激)

理解する(分かる)ことが難しい原因

- 認知の偏り
- 学習スタイル
- 複数作業の苦手さ
- 曖昧さの理解
- イメージの弱さ
- 反復学習が必要

＊ 教科的な内容を取り扱う自立活動の例

- ・漢字の構成
- ・言葉の意味を理解するための指導
- ・物語文全体を視覚的にとらえる指導
- ・心情理解のための指導
- ・説明文の内容理解のための指導
- ・数の概念や計算の仕組み
- ・文章問題の解釈
- ・図形問題の視覚的理解
- ・三角定規・分度器などの用具の使い方
- ・学習方法の改善指導

■ 特別支援教室キラリの対象

知的な発達には遅れがなく、自閉症、情緒障害、学習障害、注意欠陥多動性障害の傾向があり通常の学級の授業におおむね参加できているが、

- ・勉強面で得意、不得意の差が大きい。(例：計算はできるが、文章題だと難しい)
- ・相手の気持ちを理解すること、自分の感じたことを言葉で表現するのが苦手。
- ・急な予定変更や、初めての場所、初めてのものが苦手。こだわりが強い。
- ・集中力が長く続かない反面、夢中になると切り替えが難しい。

などの、発達のアンバランスや情緒面、社会性に課題のあるお子さんのための教室です。

■ 授業風景の様子



【身体の動きの指導例】

バランスボールを使って、体幹を意識したり、強化したりする練習をしています。



【コミュニケーションの指導例】

気持ちの良いやりとりができるように、話し方や聞き方を練習しています。



【自己理解の指導例】(可視化)

ホワイトボードを使って、自分の課題を整理しながら、自己理解を深めています。



【自己理解の指導例】(動作化)

「質問に対する自分の考え」を「○」「×」「△」「？」の中から、身体を動かして選んでいます。

「ぼくは、嫌なことがあるとイライラする」
「分からないものをそのままにしている」
「食べ物の好き嫌いがある」 など

❖ キラリについてお聞きしたいこと等ありましたら、担任、特別支援コーディネーター、管理職にお声掛けください。